一般-1

命を体感させる羽化コントロールに関する研究
ー小学校３年「チョウを育てよう」の学習を通してー

井上　文雄

小学校では平成23年度より新しい学習指導要領が全面実施されている。小学校学習指導要領・理科の教科の目標の中に「見通しを持って観察、実験等を行い」と理科の学習においての観察、実験等の一層の充実が言われている。

３年の理科は、１、２年の「生活科」の飼育・栽培体験を基礎にして自然や物質の成り立ちに対する関心を持たせるようにしている。３年「昆虫の育ち」は、チョウを育てながら、その育ちの観察を記録しくらしを調べる活動を通して、昆虫の一生や体のつくりをとらえることができるようにすることである。チョウの卵を採集し、かえった幼虫の世話をし成長の様子を観察する。子どもたちは、毎日世話をして育てる。生き物の誕生や成長に触れることができ、まさに命を体感できる単元である。しかし、一生懸命世話をするのであるが、蛹から羽化をするのは早朝であるため学校での学習時間に羽化に立ち会うことはほとんどない。せっかく子どもたちが飼育し、観察していながら羽化については、ビデオなどの視聴覚教材を使うことが多い。そこで、「冷蔵、加温」により通常の学習時間に子どもたちの目の前で羽化を見させることができる羽化コントロールに取り組んだ。蛹からチョウが誕生する瞬間は荘厳なもので、まさに新しいいのちの誕生といえよう。これは、小学生だけでなく、教員養成大学の学生にとっても貴重な体験につながるものである。

一般-2

「術直後の観察」能力を育成するための学内演習方法の検討

阿児馨　岩切由紀　松岡真菜　和田知世
近藤裕子　中田康夫　生島祥江

目的は、「手術直後の観察」能力を育成するための学内演習について、課題を明らかにし、今後の演習方法を考察することである。

療養支援看護学領域において療養支援実習Ⅲでは、「手術室から帰室直後の患者の観察」の学内演習後、臨地において実習を行っている。それは、手術室から帰室直後の患者は急激な変化を生じやすい状態であるため観察が重要であるが、学生は術直後の観察を行うことに困難があり、演習が必要と考えたからである。そこで術直後の患者に必要な観察項目をあげ実施できることを目的に、胃切除の術後の事例を用い、術後の看護を考え観察を行っている。

今回演習を評価するために、指導教員が指導のなかで困難に思っている事をグループディスカッションすることによって演習上の課題を抽出した。結果、1.個別の状況を踏まえ、焦点化し具体の観察とすることが困難、2.術後の患者の状態、治療状況に応じた観察が難しい、3.術後の安全・安楽に着目したケアに繋がる観察が難しい、4.焦点に対応した観察結果をアセスメントできない、5.教員の到達状況の迷いという課題が抽出できた。これらの課題の要因を踏まえ、効果的な学内演習の方法を考察した。